スズメ *Passer montanus saturatus* の白化と黒化の例

橋 本 太 郎*

Summary

Some examples of albinism and melanism in the Tree Sparrow

Taro Hashimoto

Three albinism and one melanism examples of *Passer montanus* collected or observed in Mie Prefecture are described. One albino was the leucism rather albinism.

スズメ *Passer montanus saturatus* STEJNEGER は人家、耕地にきわめて普通であるため、白化は人々の注目をあつめ、しばしば新聞のニュースとして掲載される。筆者も過去において、種々標本の入手を計ったこともあるが、実際には稀なものであって、入手は容易でなく、標本として残る機会は少ないようである。

黒化の例は、白化と比較して美しくないためか、さらに発表される機会は少なく、打捨てられているのではないかと思われる。

然し、このような変異は、鳥の羽毛の形や発色の遺伝学的、又は生化学的研究の資料として必要であることが予測されるので、散逸しないよう注意すべきものと思う。

筆者は最近伊勢市付近で、白化3例、黒化1例の観察と採集をすることができたので、その要点を報告する。なお白化標本2羽は昭和40年度農林省鳥獣捕獲許可証第1338号により、黒化標本1羽は昭和41年度同許可証第321号により採集したものであることを明記する。

例 1 白化 (標本写真1参照)

採集日、性、令	1965年3月28日、雌成鳥
採 集 地	三重県伊勢市磯町
採 集 者	橋本太郎
測 定	翼長 70 mm 尾長 51 mm 嘴峰 12 mm 跗蹠 18 mm

白 化 の 状 態

- (1) 嘴色 黒色で正常に比べわずかに淡色。
- (2) 虹彩 黒褐色で正常。
- (3) 耳羽と腮線 ごく薄い灰色。
- (4) 頭頂と後頭 殆んど白色で額がわずかに茶色を帯ぶ。

* 三重県伊勢市朝熊町1547

Fig. 1 Three albinism examples of *Passer montanus saturatus*.

は例2と殆んど同色であった。正常なスズメとペアの行動をとっていたが、其後観察を怠っていたので本年度の蕃殖は不明である。

(5) 脚部 淡褐色で正常。

(6) 其他の部分は全部白色。

例2 白化 (標本写真2 参照)

採集日, 性, 令 1965年4月1日。雄成鳥。

採集地 三重県伊勢市阿竹町

採集者 橋本太郎

測定 翼長 68 mm

尾長 50 mm 嘴峰 11 mm

跗蹠 17 mm

白化の状態

(1) 嘴色 黒色で正常に比べわずかに淡色。

(2) 虹彩 黒褐色で正常。

(3) 耳羽と腮線 薄墨色。幼鳥に似る。

(4) 頭頂と後頭 ごく薄い茶色。

(5) 翳, 翼, 尾羽, 肩羽の黒色部はごく薄い帯茶灰色で褐色部は白色。

(6) 其他の部分は全部白色。

例3 白化 (写真3 参照)

観察日 1966年3月30日

観察地 三重県伊勢市阿竹町

観察者 橋本太郎・徳力富士雄

2 白化の状態

例2と同一地区で7~8mの至近距離から双眼鏡により観察, 500 mm 望遠により数葉の写真撮影したが, 白化の状態

例4 黒化 (写真4 参照)

Fig. 2 One melanism example of *Passer montanus saturatus*.

採集記録

採集日, 性, 令 1966年 6月18
日。雄成鳥。

採 集 地 三重県伊勢市
大湊町

採 集 者 橋本太郎
測 定 翼長 70 mm
尾長 52 mm 嘴峰 11 mm
跗蹠 17 mm

黒化の状態

(1) 頭部 嘴, 耳羽, 頭頂, 後
頭, は正常。喉は黒色。顔面
の白色部分は全部黒色。

(2) 頸部 背面は正常。腮線なく, 白色部分は黒褐色で黒色の差し毛がある。

(3) 胸は頸部よりややうすい黒褐色で差し毛がある。

(4) 肩羽, 背, 腰は正常。

(5) 腹と脇はやや褐色の煤色。

(6) 翼の表面は正常。裏面は正常よりやや濃色の煤色。

(7) 尾部 上尾筒は正常。下尾筒は褐色をおびた煤色。尾羽は正常。

全体としてみると, この黒化は腹面又は側面の白色部と淡色部はすべて黒化し 背面は正常である。

筆者はこれとほぼ同一例の仮剥製を一羽保管しているが, この個体は 1933 年12月28日に甲種猟者の捕獲物から選別したもので, 伊勢市附近のものと思われるが, 頭部, 頸部, 胸部の白色部分は黒に近い黒褐色で, 以後の腹面, 側面は褐色を帯びた煤色をしている。頭頂以下の背面はすべて正常である。

考 察

以上の例に手持ちの部分白変数例を加えて考察すると, スズメの羽色の異状は 白化と黒化があり, 白化の傾向は正常の羽に白色の差し毛のあるものから, しだいに白色の部分を増し, 白色に正常羽の混じる状態から全白色となる。又一方では正常羽全体が漂白脱色されていくように, しだいに色と斑紋がうすくなり, 遂には全白色となる。虹彩は最後まで白化しにくいもののようである。

黒化の標本は前記 2 例だけなので, どのような傾向をたどるかは予想しがたい。このような羽色の異状変化は, 羽色を表わす遺伝子の複雑なはたらきの一部に変化がおこっていることが予想されるものであるが, 各種の鳥の限られた羽域に個有の形や色の羽毛がはえるということは驚異というべく, その機構を知りたいと希うのは筆者のみであるまいと考えるのである。